資料３

都立高校の魅力向上等に係る懇談会専門部会

第二部会（第３回）

令和８年10月22日

1 多様化する背景（不登校・中途退学者）への対応

2 多様化する背景（発達特性、障害、ヤングケアラー等）への対応

3 多様な学習ニーズに応じた学習機会の充実（通信制ニーズへの対応）

不登校・中途退学

第２回専門部会の振り返り

□ 近年、都内公立小・中学校、都立高校ともに**不登校児童・生徒が増加**

□ 不登校の背景には、人間関係、学業、学校生活への適応、家庭環境、心理・健康面等、**生徒一人一人に多様な課題・背景が存在**

➡ **不登校の背景が多様化・複合化する中、居場所づくり、柔軟な学び、相談支援を組み合わせることが必要**
また、学校だけで抱えず、医療・福祉・地域等と連携して支えることが必要

各委員からの発言（概要）

○ 居場所づくりや柔軟な学び

● 不登校やその経験を持つ生徒に対しては、**オンライン授業、別室指導、校内の居場所等**を、**生徒の状況に応じて段階的・計画的に組み合わせる**ことが重要

○ 日常的な相談支援

● 教育相談ニーズの高い学校では、スクールカウンセラー等が生徒にとって日常的に関われる存在となるよう、配置や活動の在り方を充実させることが望ましい

○ 医療・福祉等との連携

● 医療機関への受診勧奨だけで終わらせず、**学校での生徒の様子や学校環境を共有**しながら、**継続的・対話的に連携**することが必要

● **生徒や保護者との信頼関係**に配慮しながら、必要な支援につなげることが重要

不登校・中途退学の背景

□ 不登校や中途退学として現れる背景には、人間関係、学業・学校生活への適応、家庭環境、生活上の課題、心理・健康面等、**生徒ごとに異なる様々な要因があり、複数の課題が重なる場合もある**

□ また、不登校経験等のある生徒の状況も様々であり、学校への再適応を目指す生徒から、引き続き登校が難しい生徒まで、**求められる学びや支援は一様ではない**

不登校生徒について把握した事実（都立高校）

※「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」から作成

人間関係に関する主な状況例

・いじめ被害を除く友人関係をめぐる問題の情報や相談があった

学業・学校生活に関する主な状況例

・学業の不振や頻繁な宿題の未提出が見られた

家庭環境に関する主な状況例

・親子の関わり方に関する問題の情報や相談があった

心理・健康的課題に関する主な状況例

・学校生活に対してやる気が出ない等の相談があった

・生活リズムの不調に関する相談があった

都立高校における中途退学理由

※「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」から作成

学業不振による中途退学が減少

「学業不振」による中途退学

	平成27年度	令和6年度
全日制	27.5%	10.1%
定時制	15.7%	7.9%

「学校生活」や「学び」への不適応による中途退学が増加

「学校生活・学業不適応」による中途退学

	平成27年度	令和6年度
全日制	34.3%	46.5%
定時制	36.7%	42.9%

➡ 学業面だけでなく、**学校生活への適応**に関わる要因の比重が高まっていると考えられる

生徒ごとに異なる様々な課題・背景が学校生活への定着を困難にし、不登校や中途退学という結果に至っていると考えられる

不登校・中途退学

都立高校の状況

□ チャレンジスクールでは、**不登校経験のある生徒等を受入れ**、状況やニーズに応じた特色ある教育・支援を実施
□ チャレンジスクール以外の都立高校においても、不登校経験等のある生徒が一定程度在籍しており、各校において相談・支援体制等を活用して対応
□ 各校が一定の受け皿として機能する一方、生徒の背景の複雑化に伴い、**学校だけでは対応が難しい課題も存在**

チャレンジスクールの取組状況

基本機能・特色等

■ **不登校経験のある生徒等の受入れ**
・学力検査や調査書によらず、生徒の**意欲を重視**した入学者選抜
・**自由な校風**や**落ち着いた校風**など、**学校ごとに異なる校風・特色**を踏まえ、不登校経験者等が**自分に合う学校を選択**

■ **提供する学び**
・基礎・基本を重視した学習
・総合学科として様々な専門科目を設置

■ **生徒支援体制**
・SCやYSWの配置充実、校内別室指導、校内居場所カフェ等

学校現場の主な声

● 不登校経験者が大多数で、設置目的に沿った生徒が入学している
● 登校不安の強い生徒の場合、卒業後の進路よりも、まずは学校に継続して登校し、最終的に卒業すること自体が目的・目標となる場合もある
● 生徒の抱える**福祉的課題、医療的課題**、家庭支援等の多様な課題について、学校だけで対応を担うことは困難

【参考】学校外の機関等による相談・指導を受けた高校不登校生徒の割合（全国）
平成23年度 **14.2**% → 令和6年度 **19.3**%

チャレンジスクール以外の状況

不登校や中途退学の状況（都立・全日制）

<u>全日制高校においても一定数発生</u>

不登校出現率		中途退学率	
平成27年度	0.81%	平成27年度	0.9%
令和6年度	1.77%	令和6年度	1.1%

SC、YSWの配置、派遣等により全校共通的に支援体制を確保しながら対応

※ 不登校・中途退学に関するデータは、「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」を基に作成

チャレンジスクール等は不登校経験等のある生徒の受け皿として一定の役割を果たしているが、複雑化する生徒の背景に対し、学校だけでは対応が難しい課題への対応も必要

不登校・中途退学

複雑化する背景に応じた支援機能の充実に向けた方向性

□ 生徒が抱える課題の中には、家庭環境、生活上の課題、心理・健康面等、**学校内の教育・支援だけでは対応が難しく、福祉・医療等との連携が必要なものも存在**

⇒ **不登校経験等のある生徒を主に受け入れるチャレンジスクールにおいて、福祉・医療等との接続・調整機能を充実**

学校と福祉・医療等をつなぐ支援機能のイメージ

学校（チャレンジスクール）



- 生徒の状況・支援ニーズを把握
- 教職員・専門人材で支援方針を共有

連携の仕組み（接続・調整機能）

①見立てる	②つなぐ	③支え続ける
生徒の状況・支援ニーズを整理	適切な支援先を確認・接続	学校と支援機関の情報共有をサポート

継続的な連携・情報共有

医療・福祉等専門機関

- **医療機関**：精神科、整形外科 等
- **児童相談所等**：児童相談所、子ども家庭支援センター 等
- **福祉関係機関**：福祉事務所、障害者支援機関等
- **地域支援機関等**：支援センター、NPO 等

学校と福祉・医療機関をつなぎ、継続して生徒を支える機能を強化

【今後の論点】

- 不登校経験等のある生徒の背景や状態の一層の多様化を踏まえ、居場所、学び方・通い方の柔軟性を含め、チャレンジスクール等に求められる役割や学校の在り方について、更に検討を深化

発達特性、障害、ヤングケアラー

第2回専門部会の振り返り

□ 都立高校には発達障害のある生徒、障害のある生徒、日本語指導が必要な生徒、ヤングケアラー、家庭や経済面に困難を抱える生徒等、**多様な支援ニーズを持つ生徒が在籍**

➡ **学習面、発達面、家庭環境等の複合的な課題に対し、生徒一人一人に応じた学びと支援が必要**
また、学び直しから生活・対人関係、キャリア形成までを一体的に支え、社会的自立につなげることが重要

各委員からの発言（概要）

○ 多様な困難に応じた支援

- 高校生段階では発達障害の特性と精神疾患が重なり合うケースも多く、**診断名にとらわれない柔軟な対応**が必要
- 特別な支援を必要とする生徒が、**自らの特性を理解**し、**必要な支援制度を適切に活用**しながら、**自分に合った進路を選択**するとともに、**困った際に相談できる力**を身に付けられるよう学校で準備・練習する機会を設けることが重要

○ 困難を抱える生徒に提供すべき学び

- 多様な生徒を支える学校においては、**「働く力」「生活する力」「人と関わる力」の育成**につながる学校設定科目を設けるなど、**生徒の興味・関心や将来の自立につながる教育課程**を工夫することが必要

○ 社会的自立に向けたキャリア教育

- 将来の社会的自立に向け、**企業や地域等と連携**した**体験的な学び**や**インターンシップ、就労支援**を早期から充実させることが重要
- キャリア教育においては、進路情報を提供するだけでなく、**多様な人との関わりや体験**を通じて、生徒の自己肯定感を育み、**自己理解を深め、自らの長所や可能性に気付く**ことができるようにすることが重要

発達特性、障害、ヤングケアラー

生徒が抱える多様な背景

□ 都立高校には、発達特性や障害、日本語指導の必要性、家庭環境等、**様々な課題・背景を有する生徒が在籍**
□ こうした背景や課題は必ずしも個別に現れるものではなく、**複数の課題・背景を併せ持つ生徒も存在**

発達障害のある生徒

発達障害の可能性のある生徒の在籍率（都立高校）

都立高校にも一定数が在籍

全日制	2.5%
定時制	14.4%
合計	3.4%

令和6年2月「都立高校における発達障害教育の手引き　～誰一人取り残さない学校づくり～」から作成

発達障害の特性

■ 自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害といった特性が存在

■ **特性により直面する困難や行動傾向等が異なる**
（興味関心の偏り、不安定な心理状態、特定の能力への著しい困難　など）

特別な支援が必要な生徒

特別支援教育を受ける児童・生徒数

児童・生徒数（義務教育段階）は増加傾向

特別支援学級児童・生徒数（都内公立小・中学校）

平成27年度	令和7年度
9,344人	16,397人

通級児童・生徒数（都内公立小・中学校）

平成27年度	令和7年度
12,096人	38,779人

東京都教育委員会「公立学校統計調査報告書」から作成

特別支援学級からの進路

■ 都内公立中学校の特別支援学級を卒業した生徒は、特別支援学校高等部のほか、一定数は高等学校に進学

※ 令和7年3月卒業生は、進学者1,701人のうち、273人が都立高校に進学
（東京都教育委員会「公立学校統計調査報告書【進路状況調査編】」）

ヤングケアラー

世話をしている家族がいる生徒の在籍率

都立高校にも一定数が在籍

全日制高校2年生	4.1%
定時制高校2年生相当	8.5%
通信制高校生	11.0%

厚生労働省「ヤングケアラーの実態に関する調査研究（令和2年度）」から作成

世話をしているために、できていないこと

全日制高校2年生　※ 出典は同上

自分の時間が取れない	16.6%
宿題をする時間や勉強する時間が取れない	13.0%
友人と遊ぶことができない	11.4%

学校現場では、不登校経験、発達特性・特別支援ニーズ、家庭・経済面等、複数の課題・背景を併せ持つ生徒も在籍

発達特性、障害、ヤングケアラー

都立高校の状況

□ エンカレッジスクールや昼夜間定時制では、それぞれの特色を生かし、**多様な背景や支援ニーズを有する生徒を受け入れ、学びや学校生活を支援**

□ 生徒が抱える課題の多様化・複合化に伴い、**従来の教育・支援だけでは十分に対応することが難しい場面も存在**

エンカレッジスクールの取組状況

基本機能・特色等

■ **生徒の受入れ**
・学力検査によらず、調査書や面接、小論文等による入学者選抜

■ **提供する学び**
・学び直しを重視
・1年次には集中できる30分授業により基礎・基本を徹底
・キャリアガイダンスを通じた職業観の育成や体験学習の重視

■ **生徒支援体制**
・二人担任制によるきめ細かい指導
・SC、YSW等の配置充実

学校現場の主な声

●**発達障害・知的障害等のある生徒が大幅に増加**している。その他にも、不登校経験者や家庭環境・経済的困難を抱える生徒等も多い

●生徒の抱える様々な背景・課題により、**学び直しが困難なケース**がある。課題提出等により何とか進級・卒業につなげている実態もある

●**就労支援にも課題がある。**進路決定できた場合でも、進学先や就職先に定着できず、すぐに離れてしまう場合もある

昼夜間定時制の取組状況

基本機能・特色等

■ **生徒の受入れ**
・自分のライフスタイルや学習ペースに合わせて、午前・午後・夜間の三部を選んで入学

■ **提供する学び**
・基礎・基本を重視し、習熟度別授業や少人数授業などの多様な授業形態
・職業に関する専門科目や、デザイン・ビジネス・ファッション等の特色ある選択科目も設置

■ **生徒支援体制**
・SC、YSW等の配置や校内別室指導、カウンセリングルーム等の充実

学校現場の主な声

●不登校経験者、発達特性・特別支援ニーズのある生徒、外国につながる生徒等が在籍している。**複合的な課題・背景を併せ持つ生徒**も多い。

●学校だけでは家庭環境、福祉・医療的課題、外国人生徒の在留資格や就労・進学相談まで対応するのは困難

●現在、定時制は1学級30人だが、もう少し小規模であれば、不登校生徒や発達特性のある生徒も含め、全ての生徒に声を掛けやすくなる。

多様化・複合化する生徒の課題に対し、社会的自立までを見据えた更なる教育・支援の充実が必要

発達特性、障害、ヤングケアラー

社会的自立を後押しする支援の充実に向けた方向性

□ 多様な困難を抱える生徒も、それぞれに**強みや可能性**を有しており、**地域・社会との関わり**を通じてその力を伸ばし、**地域で役割を担い活躍していくこと**が期待される

□ **卒業後の進学や就労、定着**までを見据え、**高校段階から社会につながる力を育むことが喫緊の課題**

⇒ **地域・企業等との関わりや体験を通じ、社会的自立につながるキャリア教育・就労支援を充実**

地域・社会との関わりを通じたキャリア形成支援のイメージ

自分を知る

自己理解・進路形成

- 多様な人との関わりや体験を通じた、自らの強みや可能性の発見
- 社会生活や就労に必要な力の理解
- 進学・就職等の情報を踏まえた、自分に合った進路の検討

社会と関わり、役割を担う

社会参加・コミュニケーション

- 地域の多様な人材、大学等との交流
- 地域を題材とした探究・キャリア教育
- 他者と協働し、校内外で役割を担う経験
- コミュニケーション能力や社会性を育む

体験し、進路につなげる

体験的な学び・就労支援

- 企業や地域等と連携した職業体験・インターンシップ
- 生徒の状況・希望に応じた就労・進路支援
- 卒業後の進学・就労・社会生活への円滑な移行と定着を見据えた準備

生徒一人一人が自らの強みや可能性を生かし、進学・就職やその後の定着につながる力を身に付ける

【今後の論点】

- 多様な困難を抱える生徒にいかにして社会性を身に付けさせ、確実に地域社会で活躍できる人材に育てていくか
- 上記の論点を踏まえ、エンカレッジスクールや昼夜間定時制等に求められる役割・在り方について更に検討

通信制

第2回専門部会の振り返り

□ 現在、全国の高校生の約10人に1人が通信制高校を選択するなど、**通信制高校へのニーズが増加**

□ 通信制高校は不登校経験等のある生徒の学びを保障する**セーフティネット**としての役割に加え、**自分のやりたいこととの両立**や、**自分に合った柔軟な学び方**を希望する生徒の**積極的な選択肢**にもなっている

□ 通信制を選択する生徒の中には、対面での学びや交流、高い頻度での通学を希望する生徒も存在

➡ **こうした多様なニーズを踏まえ、都立通信制課程の機能や在り方について検討することが必要**

各委員からの発言（概要）

○ 多様な学びや支援の充実

- **生徒の興味・関心**や将来につながる**特色ある学び**、**部活動等を充実**させることが、生徒の主体的な学習や登校の動機となり得る
- 中学校等で不登校を経験し、学校行事等を十分に経験できなかった生徒もいることを踏まえ、**学校行事を含む交流・体験活動を充実**させることが重要

○ 今後の都立通信制課程の在り方

- 経済状況にかかわらず、生徒が対面での学びや交流を選択できるよう、都立通信制においても**柔軟に通学できる仕組みを充実**させることが求められている
- 登校・スクーリングを希望する生徒のニーズを踏まえ、**対面での学びや交流、体験等を含む都立通信制の機能を充実**するとともに、通信制単独校を含む**学校形態の在り方について検討**する必要がある

通信制

通信制ニーズの拡大

□ 不登校経験等のある生徒の受け皿としての役割に加え、**生徒の背景やニーズの多様化**などを背景に、**通信制高校への進学者が増加**

□ その背景には、通学回数の少なさや人間関係への不安に加え、**自分のやりたいこととの両立など、柔軟な学び方を求めて通信制を選択する生徒もおり、通信制高校に求められる役割が変化**

通信制高校のニーズの増加

量として拡大

高校生全体に占める通信制高校の生徒の比率（全国）

平成27年度	令和7年度
5.2%	9.6%

文部科学省「学校基本調査」より作成

都内公立中学校からの通信制高校への進学状況

平成27年度	令和6年度
1,827人	5,541人

「令和7年度公立学校統計調査報告書」等から作成

通信制高校に通う生徒の背景（全国）

セーフティネットとしての役割は引き続き大きい

不登校経験がある生徒	狭域通信制：65.6% 広域通信制：64.2%
ひとり親家庭の生徒	狭域通信制：28.2% 広域通信制：29.9%
心療内科等に通院歴のある生徒	狭域通信制：21.1% 広域通信制：21.4%

文部科学省「高等学校教育の在り方ワーキンググループ　審議まとめ参考資料集」から作成

都立通信制高校の志望理由

「通えないから通信」だけではない

学校に通う回数が少ない	52.0%
全日制の学校の人間関係に不安があった	42.0%
自分のやりたいことと学業との両立を図ることができる	30.0%

東京都教育委員会「都立高校の現状把握に関する調査（令和4年4月）」から作成

不登校経験等のある生徒の受け皿としての役割に加え、柔軟な学び方を求める生徒にも通信制の選択が広がっている

通信制

都立通信制の状況

□ 現在の都立通信制は、通学の負担を抑えながら学びたい生徒等の受け皿として一定の役割
□ 一方、通信制を選択する生徒の中には、**通学や人との関わり、学校生活・体験等も求める生徒が存在**

都立通信制の取組状況

基本機能・特色等

■ 生徒の受入れ
・全日制課程等を中退した生徒や、不登校を経験した生徒、基礎学力が不足している生徒など、**多様な生徒が在籍**

■ 提供する学びや支援
・デジタル技術の活用による生徒の自学自習のサポート、学校外の居場所づくり、民間事業者等と連携した学びの選択肢の充実等を推進

学校現場の主な声

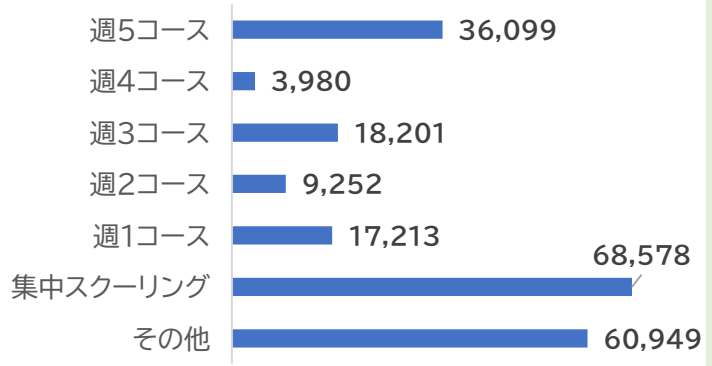
● 集団になじめない、集団生活を得意としない生徒が中心で、**不登校経験者は多い**
● **スクーリングや対面での支援**について、更に積極的に参加したいという生徒も一定数いる。

都立以外も含めた通信制全体の状況

スクーリングの頻度別生徒数

高い頻度で通学するニーズも存在

私立通信制高校　通学頻度別生徒数



「令和7年度通信制高等学校実態調査に関する調査結果（速報版）」より作成

※ 既存の**都立通信制3校は全て定時制課程の併置校**であり、**土曜日にスクーリングを設定**

通信制を希望する様々な生徒像（例）

夢の実現に向けて挑戦したい生徒
スポーツ、芸能、起業、ボランティア、海外挑戦　など

好きなことに集中し、深く学びたい生徒
eスポーツ、アート、プログラミング、音楽、資格取得　など

集団や社会とのつながりを取り戻したい生徒
中退後の再スタート
学び直し
進学や就職準備　など

自分のペースで少しずつ前に進みたい生徒
不登校等の経験
体調等に配慮したい
まずは高校卒業を目指したい　など

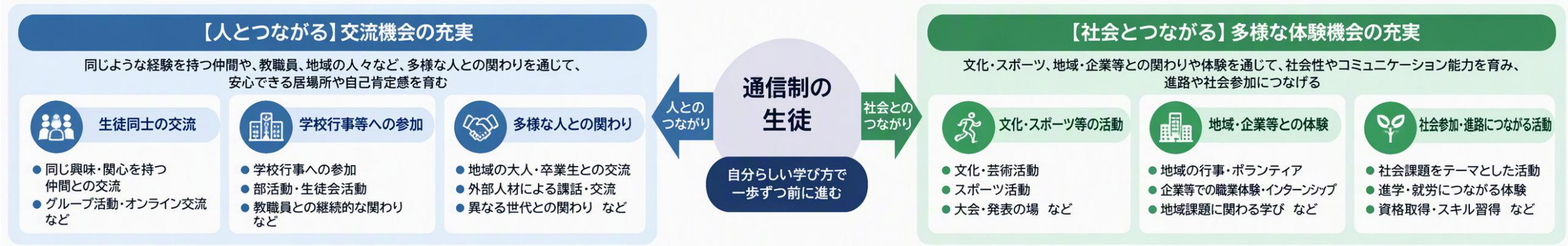
通信制を選択する生徒の多様なニーズと、現在の都立通信制が提供する学び・支援との間には一定程度のギャップが存在

通信制

多様な学習ニーズに応える都立通信制の充実に向けた方向性

□ 通信制を選択する生徒の中にも、**人との交流、学校行事や体験活動等を求める生徒が存在**
□ 通信制に対するニーズは、学び方の柔軟性に加え、**学校や社会とのつながりを得ることにも広がっている**
⇒ **現在の都立通信制において、人や社会との交流や多様な体験につながる機会を充実**

人や社会とつながる交流・体験機会のイメージ



希望する生徒が、人との関わりや多様な実体験を得られる機会を充実

【今後の論点】

- 通信制に対する多様なニーズを踏まえ、都立学校として確保すべき通学・対面学習、交流・体験、相談支援等の機能について、更に検討を深化
- チャレンジスクール、定時制等の既存他校種が担うセーフティネット機能との関係も踏まえ、都立通信制の在り方について検討